



## 「2020年教育改革」の現在地

梅雨の終わりが次第に近づき、いよいよ本格的な夏を迎えようとしています。生徒たちも待ちに待った夏休みを目前に、ドキドキ・ワクワクが抑えきれないのではないでしょうか。

さて、2020年より、センター試験に代わる新たな大学入試として、「大学入学共通テスト（仮称）」が始まるということをご存知のとおりかと思えます。暗記中心の学習から脱却すべく、「思考力・判断力・表現力」を重視し、より高い応用力が求められるこの試験。国語・数学で記述問題が採用されます。先日、大学入試センターにより、記述式モデル問題が発表されました。

国語は古文・漢文をのぞく「国語総合」から、文字数80～120字程度の問題を含めた3問程度が出題されます。モデル問題としては、行政機関の広報誌を題材に景観保護の意見を述べる問題（左下図）や、駐車場の契約書に関する問題があげられています。「数学」は記述の意義が大きい「数学Ⅰ」から出題。数学的な処理で解決して結果を得るために数式や図表、グラフなどで表現する3問程度の出題。銅像の高さや鋭角を確かめるために式を用いて記述する問題（右下図）がモデル問題としてあげられています。

**モデル問題例1**

**【資料A】**

かおるさんの家は、【資料A】の城見市街並み保存地区に面している。伝統的な外観を保った建物である。城見市が仮した景観保護ガイドラインのあらましと、かおるさんの父と姉の会話を読み、後の問い（問1～4）に答えよ。

**モデル問題例4**

1) 花子さんと太郎さんは、次の記事を読みながら会話をしている。

＝公園整備計画＝ 広場の大きさをどうする？

○〇市の紅葉前野球場跡地に整備される市民緑地公園（仮称）の整備内容について、緑地公園計画推進委員会は15日、公園のメイン広場に地元が生んだ武待公銅像の銅像を建てる案を発表した。市長への思いの場を提供するとともに、観光客の誘致にも力を入れたい考え。

ある委員は、「銅像の設置にあたっては、銅像と台座の高さはどの程度がよいのか、観光客にとって銅像を最も見やすくするためには、メイン広場の広さはどのくらいあればよいのか、などについて、委員の間でも様々な意見があるため、今後、実寸大の模型などを使って検討したい」と話した。

〔写真はイメージ〕

花子：銅像と台座の高さや、広場の大きさを決めるのも難しそうね。  
太郎：でも、近づけば大きく見えて、遠ざかれば小さく見えるというだけだよ。  
花子：写真を撮るとき、像からどのくらいの距離で撮れば、銅像を見込む大きくなるかしら。

見込む角とは、右図のように、銅像の上端Aと下端Bと見る人の目の位置Pによってできる $\angle APB$ のことである。  
二人は、銅像を見込む角について、次の二つのことを仮定して考えることにした。  
・地面は水平であり、直線ABは地面に対して垂直である。  
・どの位置からも常に銅像全体は見える。  
次の各問いに答えよ。なお、必要に応じて10ページの三角比の表を用いてもよい。

35

また、「英語」では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能を適切に判断するため、民間の資格・検定試験を活用することになります。高校3年生の4月～12月の2回までの試験結果が反映されることとなり、「CEFR」（セファール）という国際的な基準の段階別成績に変換して大学側に送られる方式が検討されています。

とはいえ、私たち LABO7 が目指すゴールは、決して大学入試ではありません。未来を生きるために必要となるさまざまな力を身につけることこそ、これからの世の中で求められることであり、何よりも本人たちにとって大切なことであると考えています。